A コース

# おだやかな時間の流れを感じる・山科疏水みち

疏水建設は、明治の中頃、衰退する京都の近代化を図るための一大土木事業として行われました。「明治版プロジェクトX」ともいうべき大事業をへて、琵琶湖から京都にのびる美しい運河ができました。今ではのんびりと散策が楽しめ、山科における桜や紅葉の名所となっています。

[交通案内]　地下鉄東西線御陵駅下車・出口②

[順　路]　距離　約5Km

御陵駅 ⇒(8分) 日本初鉄筋コンクリート橋 ⇒(7分) 永興寺 ⇒(6分) 本圓寺 ⇒(20分) 安祥寺 ⇒(11分) 諸羽神社 ⇒(10分) 一燈園「香倉院」 ⇒(6分) 四ノ宮駅

疏水の紅葉

## ❷洞門題字説明

| 第3トンネル東口（地図上の A） | 第2トンネル西口（ B） | 第2トンネル東口（ C） |
|---|---|---|
| 『過雨看松色』（松方正義筆）<br>（かうしょうしょくをみる）<br>しぐれが過ぎるといちだんと鮮やかな松の緑を見る事ができる | 『随山到水源』（西郷従道筆）<br>（やまにしたがいてすいげんにいたる）<br>山にそって行くと水源にたどりつく | 『仁以山悦智為水歓』（井上馨筆）<br>（じんはやまをまもってよろこびちはみずとなるをよろこぶ）<br>仁者は知識を尊び、知者は水の流れをみて心の糧とする |

❶「琵琶湖疏水」
琵琶湖疏水（第1疏水）の完成は1890（明治23）年。工部大学（現在の東京大学）を卒業したばかりの田辺朔郎（さくろう）が設計し、わずか5年で建設。水力発電などに利用され、市内に日本初の電気鉄道を開通させるなど、京都の近代化に大きな役割を果たしました。

❷「疏水トンネルの洞門（どうもん）」
疏水の各トンネルには、明治政府要人による題字が彫られた洞門があり、コンクリート橋と共に国の史跡となっています。洞門はそれぞれデザインが異なった芸術性の高い作品であり、これらを見て歩くのも楽しいでしょう。コース内には3ヶ所あります。

❸「安祥（あんしょう）寺」
9世紀中頃、仁明（にんみょう）天皇の后（きさき）である藤原順子（のぶこ）の発願により、僧恵運（えうん）が開いたお寺。昔は上寺と下寺があり、山科北部に広大な地域を占めていました。現在は疏水のそばに、おもむきのあるたたずまいをとどめています。（境内は非公開）

❹「毘沙門（びしゃもん）堂」
江戸幕府の政治顧問として活躍した僧天海が再興した門跡寺院（格式の高いお寺）。見る角度によって目や顔の向きが変る「天井の龍」や、逆遠近法で描かれた「震殿の襖絵」は必見。春は枝垂桜、秋は紅葉が見事な山科の古刹です。

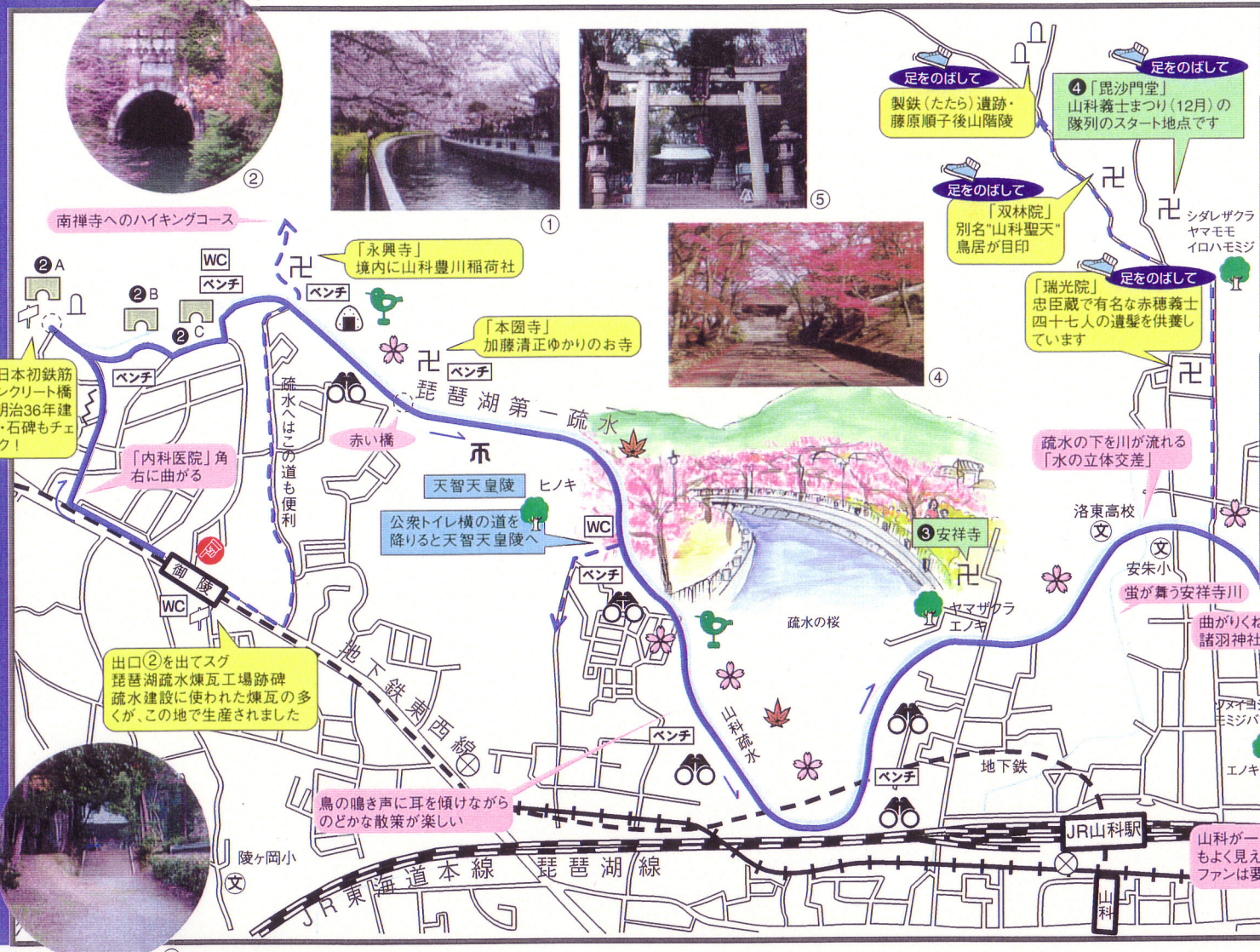
❺「諸羽（もろは）神社」
通称「四ノ宮（しのみや）」とも呼ばれる桜や紅葉の美しい神社。862（貞観4）年の創建と伝えられています。境内にはその昔、諸羽山麓にあったと伝えられている「人康（さねやす）親王山荘跡」の碑や、その山荘内にあったとされる琵琶石が遺されています。

❻「西田天香（てんこう）と一燈園（いっとうえん）」
自然にかなった生活をすれば何物をも所有せずとも、また働きを金に換えずとも、許されて生かされるという信条のもと「無所有奉仕の生活」を実践した人（1872～1968）。1929（昭和4）年、現在の地に一燈園が開設されました。

②


①


⑤


④

③